

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和3年11月末	令和4年2月末	令和4年5月見通し	令和4年8月見通し
+96千トン 〔 2094千トン〕 (104.8%)	+77千トン 〔 2171千トン〕 (103.7%)	-75千トン 〔 2096千トン〕 (96.5%)	+14千トン 〔 2110千トン〕 (100.7%)
2044千トン(97.6)	2175千トン(99.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和3年12月末	令和4年3月末	令和4年6月見通し	令和4年9月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は123,400円。前期比+8,000円。秋需が伸び悩んだ需要期となった。建築について大型物件は順調ながら、中小物件は変わらず低調。12月に入り落ち込んだ。流通は需要見合いの仕入をした在庫の過剰感はなかった。スクラップ価格は弱含みだが高炉、電炉ともメーカーは強気姿勢を崩していない。製造業関連では建産機は好調、自動車の減産から薄板在庫は増加。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は126,400円。前期比+3,000円。年度末ということで若干仮需は発生したと思われる。メーカー値上げを受け手持ち物件を早めに手配する動きが加速したような感じである。流通は仕入を抑えていることもあり、適正を維持。製造業関連では建産機は堅調だが、メーカーによっては半導体など部品不足の影響が出ている。自動車生産においても半導体などの影響で調整が続いている。	大手ファブでは山積み確保されており、大型物件は堅調に推移。中堅以下のファブでは山積みの低い状態が続いているため中小物件は相変わらず低調。スクラップ価格が下落したが、電炉メーカーが現状価格を維持する姿勢が強く市況は踊り場状態となっている。一方、高炉メーカーでは値上げの様相を示している。需要がなく過剰感がある中で、与信不安を抱えながら流通は価格転嫁に苦慮している。	建築について大型物件は堅調も中小物件については建築資材全般に渡って高騰し見直しや延期等も懸念され需要は低調のまま推移すると思われる。上海のロックダウンが解除されたことで今後、スクラップ価格の再上昇や製造業関連の部品不足の緩和も予想されるが先行き不透明。先々の更なるメーカー値上げを考慮し前倒し発注もあるかもしれないが、値上げ幅が相当大きくなるため引き続き流通は価格転嫁に苦労することになるだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

4月の仕入量は157,465トン前月比-7.0%、前年同月比+2.9%、販売量は166,409トン前月比-3.8%、前年同月比+4.9%。前月比では仕入量・販売量とも減少、前年同月比では仕入量・販売量ともに増加となりました。在庫量は238,293トン前月比-3.6%、前年同月比+1.8%、在庫量は前月比減少、前年同月比増加しました。在庫率は143.2ポイントと若干上昇しました。4月の販売は稼働日数の関係で前月比減少しましたが、前年同月比では増加しました。ただ、需要が回復したとは言い難く、GW前の引合いも思ったほどありませんでした。市況については段階的に転嫁していますが、まだまだ追い付いていない状況です。

4. 大阪の動向

1～3月にコロナ感染者増加、規制の影響で建築案件の荷動きは停滞した。

3月末のコロナ規制解除から4月のH形鋼出荷は2019年以降では最高の実績も継続性はなく5～6月は再び荷動きは低調に。建産機も中国のロックダウンの影響と部品不足もあり、減産になった。

7～9月の需要予想は、コロナによるロックダウンの影響、ロシア・ウクライナ問題に大きく左右されそう。5～6月の荷動きが低調だったことから、7～9月は回復に期待するも建築面では、大手物件は順調も、中小物件は相変わらず聞こえてこない。建産機も部品不足による減産の先行きが不透明であり厳しくなりそう、回復するまで我慢。